

農業技術普及に社会的アプローチが与えた影響<その 5>

農家間普及・まとめ

国際耕種が 2015～2021 年にかかわった北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト（NUFLIP）では「市場志向型農業」と「生活の質の向上」を活動の二本柱として農家の生計向上に取り組んだ。本シリーズは NUFLIP において、「生活の質の向上」という社会的アプローチが「市場志向型農業」の技術普及に与えた影響を紹介している。

農家間普及

野菜栽培を地域に普及するにあたり、対象グループのメンバーに加えて、グループに所属していない地域の農家に如何にアプローチするかは、不可欠な要素であった。そのため、NUFLIP では、対象農家グループが地域社会に与える影響を重視し、グループ選定の際には、「他の地域住民にも研修成果を共有する意思があるか」という点を一つの選定基準とした。また一年の研修の仕上げにはフィールドデー（成果発表会）を実施し、研修で得た成果や学んだ知識を地域の住民に共有する機会を設けた。このフィールドデーにより、新たに技術を学びたい、グループに入りたいという人々が集まり、農家間の技術普及が促進された。

一方で、野菜栽培がうまくいくと、収穫物の盗難や、除草剤の散布、放火、家畜を意図的に畑に放牧するなどの破壊行為が報告されることもあった。被害にあったグループは野菜栽培の意欲が削がれ、技術普及にかかる一つの課題となっていた。これらは、主としてグループに所属していない地域住民による嫉妬や妬みに起因していた。そのため、フィールド

デーにおいて、他の住民に学んだことを共有し、「技術を学びたい人は拒まない」「知識や技術を独占しない」とメッセージを発信するこ



フィールドデーの様子。研修成果をドラマ仕立てで紹介している。

とは、嫉妬や妬みを避けるために重要な取り組みであった。またグループメンバーによれば、フィールドデーでジェンダーや弱者への配慮への取り組みを発信したことで「このグループは利益追求だけではなく、社会的にも意義のある活動をしている」と認知され、その結果、盗難などが軽減したという報告もあった。

まとめ

小農にとって、農業生産活動は家庭の営みの一部である。そのため、生活の質が向上することで家族全員が協力して取り組む意識が高まる。NUFLIP では、家族の協力が技術普及に正の効果をもたらし、特にジェンダー配慮や家計管理の研修は、生産力や資金管理能力の向上に貢献した。

技術普及プロジェクトに社会的アプローチが組み込まれることは珍しくない。それは住民の生活向上の視点から、農村にある社会的な問題を解決するため、あるいは技術や知識の普及によって、意図しない形でたらされる外部不経済を緩和するためだと思われる。NUFLIP の事例では、それらに加え、社会的アプローチ自体が、実際には技術普及そのものに対しても正の相乗効果をもたらした点が特徴的である。

NUFLIP に特筆すべきは、社会的アプローチが現地に状況に合わせて丁寧に設計されたことに加えて、その内容や取り組みにおいても栽培技術分野の専門家が積極的に関わったことである。このように、技術的アプローチと社会的アプローチが包括的かつ有機的に融合することで、技術普及の成果が一層高まったことが NUFLIP の成功要因と言えるだろう。